

キレる子に考える力を

福井で全国児童館大会

分科会や講演 700人情報交換

第16回全国児童館・児童クラブふくい大会(福井新聞社後援)が10日、福井市の県生活学習館

活学習館で始まった。11日まで約700人が情報交換し、子どもや子育ての支援の在り方を考える。

県内では初開催。全国の児童館・児童クラブの職員らが参加し、初日は11の分科会で話し合った。

子どもへの声掛けを考える分科会で、スクールカウンセラーを務める県立天看護福祉学部の吉弘淳一准教授は「キレる子どもに足りないのは考える力」と指摘。子どもの質問にただ答えるのではなく、どう考えているのかを尋ねた



基調講演で客席を沸かせたお笑いコンビ「パッケンマックン」
10日、福井市の県生活学習館

り、子どものネガティブな言葉をポジティブな言葉に言い換えて返したりして、前向きなコミュニケーションに導く手法を助言した。

基調講演は、お笑いコンビ「パッケンマックン」の帕特リック・ハランさんと吉田真さんが子育てについて軽妙なトークを繰り広げた。2児の父のハランさんは「アメリカの子は積極的にコミュニケーションが上手。日本の子も最初は上手なのに、中学生になると質問が出なくなる。親として、教育者として、コミュニケーションは楽しいという概念を自らの行動で示してほしい」と呼び掛けた。

11日は坂井市の県児童科学館などを視察、最新の遊びのプログラムを学ぶ。(岩城一彦)